寅さん歩 その8-5

東京発祥之地めぐり~学問・文化編5~

平野 武宏

平成 25 年(2013 年)街の中で出会った「発祥之地」の説明板に啓発され、都内に ある発祥之地を見つけて歩いた「東京発祥之地めぐり」は「寅さん歩」シリー ズもの第一号でした。「寅さん歩」目次 No20~No23 を参照ください。 その後、新たに見つけた「発祥之地」です。説明板の原文のまま記載しました。

[東京音楽大学発祥之地]

千代田区猿楽町 2-1-14 最寄駅 三田線 神保町駅

夏目漱石が卒業した錦華小学校(現在のお茶の水小・中学校)の先に碑 があります。後ろは崖で、上には駿河台の明治大学があります。 説明板には「東洋音楽学校として明治 40 年(1907 年)この地に設立されまし た。校長 鈴木米次郎は音楽教育の先駆者で恩師でもある伊沢修一、高橋順 次郎、島崎赤太郎らを評議員に迎え、わが国音楽文化の近代化をめざし創立 した」と記載。写真下左の坂道を上ると明治大学 14 号館です。





「東京大学発祥之地]

千代田区神田錦町 3-28 最寄駅 三田線 神保町駅

「一ツ橋」交差点にある「学士会館」の玄関(写真下左)の右に「学士会」 の説明碑があります。説明碑の表題は「我が国の大学発祥地」です。 説明碑の右にあるのは「東京大学発祥地」の碑です。





説明の碑には『当学士会館の現在の 所有地は我が国大学の発祥地である。すなわち、明治10年(1877年) に神田錦町3丁目にあった東京開成

学校と神田和泉町から本郷本富士町に移転してきた東京医学校が合併して東京大学が創立された。創立当初は法学部、理学部、文学部、医学部の4学部を以って編成され、法学部、理学部、文学部の校舎は神田錦町3丁目の当地に設けられていた。

明治 18年(1885年)法学部には文学部中の政治学及び理財学科が移され、法政治学部と改称され、また理学部の一部を分割、工芸学部が置かれた。このように東京大学は徐々に充実され、明治 18年に本郷(現在地)に移転を完了した。従ってこの地が「我が国の大学発祥の地、すなわち「東京大学発祥の地」ということになる。

明治 19 年(1886年)3月東京大学は帝国大学と改称され、その時、それまでは独立していた工部大学校と工芸学部が合併し工科大学院となり、その後、東京農林学校が農科大学として加えられ、法・医・工・理・文・農の6分科大学と大学院よりなる「総合大学」が生まれ、帝国大学と名付けられた。

更に明治30年(1897年)には京都帝国大学の設立に伴い、東京帝国大学と 改称された。その後、明治40年(1907年)には東北、明治44年(1911年)九州、大正7年(1918年)に北海道、昭和6年(1931年)に大阪、 昭和14年(1939年)に名古屋と帝国大学が誕生した。

戦後になくなったが、大正 13 年(1924年)に京城帝国大学、昭和 3 年(1928年)に台北帝国大学が設立されている。昭和 22 年(1947年)に至って7帝国大学はそれぞれ、東京大学、京都大学、東北大学、九州大学、北海道大学、大阪大学、名古屋大学との呼称に変わった。

明治 19 年(1886 年)7 月創立の「学士会」は以上の 9 大学の卒業生を以って組織され、その事業の一つとして当学士会館を建設、その経営に当たっている』と記載。文章は原文です。

[東京外語大学発祥之地]

千代田区一ツ橋 2-1-2

最寄駅 三田線 神保町駅

「学士会館」のはす向かいの「如水会館」(東京商科大学、現在の一ツ橋大学 同窓会館)(写真下左の建物)の隣の「学術総合センター」(旧一ツ橋講堂 跡地に建設)の敷地に碑があります。写真下右は碑の拡大版です。碑には「東京外国語大学の起源は安政 4 年(1857 年)に創設された蕃書調所まで遡るが、直接の前身である東京外国語学校が開設したのは明治6年(1873 年)11 月 4 日、この地(当時の東京府神田区一ツ橋通町 1 番地)であった。東京外国語大学はこの日を建学記念日として、この地に碑を建立する」





その後、昭和 15 年(1940 年)に滝野川区(現在の北区)西ヶ原に移転し、昭和 24 年(1949 年)に東京外国語大学となりました。 更に平成 12 年(2000 年)に府中市朝日町の府中キャンパスに移転しています。

「謄写版発祥之地」

千代田区神田加治町-3-2 最寄駅 JR神田駅東口

駅から中央通りを今川橋方面へ行くと左にある神田中央通ビルの壁に 「謄写版発祥の地」の銅版がかかってあります。写真下左の壁の黒い部分です。隣は神田消防署鍛冶町出張所です、通り過ぎないように。

銅版内の左側には「**専責特許 謄寫版販賣元 謄寫堂」**と右側に当時のお店の様子が描かれています。その下には「明治 27 年(1894 年) 堀井 新治郎親子が我が国初の簡易印刷機を発明し、謄寫版と命名。発売と同時に鍛治町のこの地に**謄寫堂**を創業した」と記載。

学校や役所で必需品だった「謄写版」いわゆる「ガリ版刷り」とは懐かしい響きです。手を真っ黒にして刷った「小学校卒業文集」の匂いを想い出した寅次郎でした。





[神田青果市場発祥之地]

千代田区神田須田町 1-8-1 辺り 最寄駅 丸の内線 淡路町駅

なかなか来る機会がなかった場所でした。靖国通りと多町大通りの角にある と認識していましたが、少し入り込んでいたので見落として、行ったり、来 たりして見つけました。



江戸中に分散していた青果市場が明暦 の大火以降、徐々にここに集まってきた と言われています。幕府の御用市場とし て駒込、千住と並び、江戸三大青果市場 のひとつといわれました。

周辺の表通りには八百屋が軒を連ね、威勢のいい商いが行われましたが、**大正 12年(1923 年)9月の関東大震災で全滅**しました。

青果市場は昭和3年(1928年)に秋葉原へ 移転、平成2年(1990年)に大田区へと 移転しました。

[開成学園発祥之地]

千代田区神田淡路町 2-107

最寄駅 千代田線 新御茶ノ水駅

長年、東京大学合格者日本一で有名な「開成学園」は明治4年(1871年)幕末の進歩的な知識人であった佐野 鼎によって創立されました。校名は「共立学校」と名付けられました。佐野先生が亡くなられた後、廃校同然から初代校長に高橋是清(後の大蔵大臣・総理大臣、二二六事件で暗殺)が就任し、今日の基礎を築きあげました。明治28年(1895年)校名を開成尋常中学校に変更、関東大震災で校舎は焼失、大正13年(1924年)現在の荒川区西日暮里に移転しました。





新御茶ノ水駅の「Sola city」に行く出口から「Sola city」の広場に下りて、右脇を抜け、ブリッジを渡ると、「ワテラス」です。ビルの間を下りて右にある「淡路公園」の中に発祥の地の碑(写真上左)がありました。周辺の変わりように目を見張りました。「ワテラス」(写真上右)は平成25年(2013年)4月グランド オープンしました。

「ワテラス」とは(和)WA+(段丘)TERRACE の意味だそうで、WA のロゴは(輪)と(環)を含めて3つです。段丘の上の敷地に和をテーマにした庭とタワー、住む人・働く人・学ぶ人の新しいコミュニティーの輪を創造していく街、緑に包まれる敷地に清らかな水が循環している潤いのある自然を表現とのこと。「ワテラスタワー41 階建」・「ワテラスアネックス 15 階建」の2つのタワーはレジデンス、オフィス、モール、スチューデントハウスを供えた新しい複合施設です。御茶ノ水駅、淡路町駅、小川町駅、神田駅、秋葉原駅から3~6分以内の場所にあります。

[歯科医学教育発祥之地]

港区三田 4-18 最寄駅 浅草線 泉岳寺駅

伊皿子坂の交差点で「東京歯科大学の碑」を見つけました。碑には「高山紀斎は米国留学で得た理想を基に、ここ東京芝区伊皿子町 70 番地に明治 23 年(1890 年)11 月、わが国最初の歯科医学校を設立した。この学院には後の世界的細菌学者の野口英世も教壇に立っている。

その後、血脇守之助がこれを継承し、東京歯科 医学院、東京歯科医学専門学校、東京歯科大学 として現在に至っている。この地に端を発した THE STATE OF THE S

近代歯科医学教育の精神は高山歯科医学院開設以来、百有余年、脈々と今に引き継がれている」と記載。

[こぼれ話] 新島襄先生 生誕地記念碑

学士会館の右脇に生誕記念碑がありました。脇の説明板は同志社創立 90 周年を記念して錦町3丁目町会、錦華小学校、小川小学校の連名でした。



説明板は『京都同志社の創立者 新島襄先生は天保14年(1843年)上州 安中藩主 板倉伊豫守の江戸藩邸に 誕生せられた、先生は幕末における 国家多難の際、わが国の前途を憂い、 キリスト教の信仰と海外事情研究を 志して、21才(1864年)函館より密か に脱国、米国に渡航し、新英州キリ スト教文化の根本を体得せられた。

母国日本の隆盛をはかるためには単に法律、政治、経済の改革のみにより 達せられるものではなく、人民の一人一人が「知識あり、品位あり、自ら 立ち、自ら治め」うるものであり、「良心の全身に充満したる丈夫となる」 ことによって、その目的をたっしうるものであることを痛感されて、留年 10年、明治7年(1874年)帰朝、翌年11月29日に京都同志社を建て、キリ スト教を以って徳育の基本とした教育のためにその生涯を捧げられた。 この碑は新島襄先生 生誕百年を記念して建てられたが、神田錦町出身者 の偉大な先覚者を偲んでこの解説を掲示するものである』と記載。 碑の文章は原文です。

脇の石碑には「天保 14 年 1 月 14 日 新嶋襄先生 生誕之地」と書かれていました。(こちらは新島が新嶋となっています)

次回は 江戸・東京の祭 です。

平野 寅次郎 拝